

#### 第43回四日市市美術展覧会 審査講評

##### 【日本画部門】

今年の出展作品は、昨年より点数が増え、また力作揃いでした。

市長賞の〈深山の秋〉は、生命感あふれる迫りに満ちたもので、自身の絵づくりの域に達している作品です。

市議会議長賞の〈熊野古道〉は、構成力に優れた作品で、古道の奥深さが色彩豊かに描かれています。

教育委員会賞の〈阿妹茶樓〉は、優れた描写力で、奥行きのある風景を描いています。日本画の新しい方向性を示す作品です。

出展作品はいずれも力作で、構成力、描写力など優れた技術の作品が多くありました。また、高校生など若い世代の出展も見られ、今後の活躍を期待いたします。

##### 【洋画部門】

一般応募点数は昨年より14点増になり、ここ数年の中では、もっとも多い出展点数でした。

まず、審査員全員の意見が一致した12作品を賞候補とし、次点の26作品をさらに見直してその中から3作品を賞候補に追加し、計15作品から賞選考を行いました。

入賞作品はどれも甲乙つけがたく、難航しました。

特に市長賞の作品は、山の清涼感の迫力と、遠景・中景・近景それぞれが上手く構成されており力作でした。

また、出展作品全てにおいて作者の誠実な取り組みが感じられ、全作品を入選としました。

##### 【彫刻部門】

今年も木、鉄、石膏、複合素材など多様な素材を用いて、出展者の皆様の様々な思いのこもった作品が並びました。

作品の前に立って思わず微笑んでしまうもの、確かな技術と表現力に驚かされてしまうものなど、幅の広い展示になったと思います。

今後も、出展者の皆様が意欲的に制作に取り組まれることを期待します。

### 【工芸部門】

工芸部門の作品は、素材が多様です。出品点数も昨年と大きく変わらず力作が並びました。

市長賞の鍛金花壺は、堂々とした存在感があり、表面処理も面白く、金属を思わせない落ち着いた仕上がりとなりました。

市議会議長賞の染色の布地の壁掛けは、孔雀の描写が緻密でよく習練された作品です。

教育委員会賞の銀彩海月(クラゲ)文食籠は白地の釉の上の銀彩の細描文で思わず見過ごしてしまいそうになりますが、足を止めて見入らせる力強さがあります。

今回は入賞しなかった作品にも各々見るべきところがあり、整理して再び挑戦すれば、入賞出来る作品であることを付け加えます。

### 【書道部門】

出品点数はここ数年 140 点前後で推移して来ましたが、今年は 119 点となりました。

市長賞の作品は、力強い線質で、文字の大小を巧みに配し、美しい流れの中に余白の美を取り入れ、格調高い作品となりました。

市議会議長賞のかな作品は、上品で清楚さが際立つ線質に加え、墨量の変化を巧みに表現し、魅力的な作品と評価されました。

教育委員会賞の作品は、漢字とかなの混じり具合を実にうまく配し、表情豊かな線でまとめており、好感が持てる作品に仕上げています。

### 【写真部門】

昨年に続き内容もバラエティーに富み、レベルの高い作品が集まりました。

残念なのは風景写真に光るものがなかったことです。風景写真はあるものを美しく撮すだけで無く、個性ある表現がほしいものです。今後は、天候、時間、光の扱い等で変化を持たせた新しい感覚の作品を期待しています。

スナップ等については、今後もこのペースでより多くのシャッターを押す事を続けていただきたいと思います。今後を期待します。